

<佐々木小次郎(被害者)の尋問>

裁判官：それでは、次に佐々木小次郎さんの証人尋問しょうにんじんもんを始めます。佐々木小次郎さんは、証言席に座ってください。検察官、どうぞ。

検察官：あなたは、今年ことしの4月13日に、被告人宮本武蔵から木刀で殴られてケガをするという被害に遭いましたね。

小次郎：はい。

【小次郎と武蔵の関係】

検察官：被告人とは以前からの知り合いでしたか。

小次郎：高校の同級生で、同じ剣道部に所属していました。

検察官：被告人の剣道の腕前はどうでしたか。

小次郎：剣道部内でもトップレベルに強かったです。

検察官：あなたの剣道の腕前はどうでしたか。

小次郎：練習しても上手くならないので高校1年生の途中で幽霊部員になり、その後は勉強ばかりしていました。

検察官：あなたと被告人では、被告人の方がずっと大きくて強そうですね。

弁護人：異議あり！誘導尋問ゆうどうじんもんです。

裁判官：検察官ご意見は。

検察官：一見して明らかなることを質問しただけです。

裁判官：異議を認めます。検察官は質問を変えてください。

検察官：質問を変えます。被告人の身長はいくつですか。

小次郎：180cmはあります。

検察官：あなたの身長はいくつですか。

小次郎：165cmです。

検察官：あなたの体重はいくつですか。

小次郎：55kgです。

【小次郎と徹子の関係】

検察官：あなたは宮澤徹子さんと交際していますね。

小次郎：はい。武蔵におそわれたときもデートをしていました。

検察官：宮澤さんは高校時代は被告人と交際していましたか。

小次郎：はい。ですが、高校を卒業した後、徹子から武蔵とのことを相談されるようになり、そうしているうちに仲良くなって、徹子は武蔵と別れて僕とつきあうことになりました。

検察官：宮澤さんとの交際が今回の事件と関係あると思っていますか。

小次郎：徹子は、ごらんの通りAKBのトップアイドル板野友美さんとうり二つの美女なので、武蔵は僕と徹子がつきあっていることが憎らしくて、徹子を取り戻すために僕を殺そうとしたのだと思います。

【武蔵におそわれたときの状況】

検察官：確かに宮澤さんは板野友美さんとそっくりですよ。裁判長、証人の記憶喚起のために木刀を示してもよいでしょうか。

裁判長：許可します。

検察官：（木刀を示す）被告人はあなたをおそったとき、この木刀を持っていたか。

小次郎：はい。僕が徹子と巖流島の浜辺を歩いていたとき、突然前から走って近づいてきて、「チェストー」と叫びながら僕にその木刀で殴りかかってきました。

検察官：最初にあなたが被告人に気づいたとき、どれくらいの距離がありましたか。

小次郎：10メートルくらいだったと思います。

検察官：被告人は、走ってきてあなたの前で一度立ち止まってから木刀を

振り上げたのですか。それとも木刀を振り上げてから走ってきたのですか。

小次郎：木刀を振り上げてから走ってきて、そのままの勢いで殴りかかってきました。

検察官：殴られたとき、被告人はあなたの身体のどこをねらってどのように殴りかかってきましたか。

小次郎：武蔵は木刀を自分の頭の上に振り上げて走ってきて、そのまま僕の頭めがけて思いっきり木刀を振り下ろしてきました。

検察官：木刀はあなたの身体のどこにあたりましたか。

小次郎：頭を思い切り殴られそうになったのですが、なんとか右手でガードしたので、右手にあたりました。でも、とても強い力で殴られたので、ガードしても額の右のほうに木刀があたり、額からたくさん血が出ました。

検察官：被告人は木刀でああなたの身体のどこをねらっていましたか。

小次郎：僕の頭をねらっていました。僕が右手で頭を守っていなかったら、木刀で頭を強く殴られていたと思います。

検察官：浜辺で殴られた後、あなたはどうしましたか。

小次郎：殺されると思ったので、近くに停泊していた漁船「関夕三郎」に逃げ込みました。

検察官：被告人は追いかけてきましたか。

小次郎：はい。「関夕三郎」の上まで追いかけてきて、そこでさらに僕に殴りかかりました。

検察官：あなたは「関夕三郎」の上で、被告人に対して何か言いましたか。

小次郎：夢中でよく覚えていないのですが、船の上でもう逃げ場がないし、それに武蔵は僕がむりやり徹子を奪ったと勘違いしているのではないかと思ったので、「話せばわかる」などと言った気がしま

す。

検察官：あなたがそう言ったことで、被告人はあなたに殴りかかるのをやめましたか。

小次郎：いいえ。武蔵は船の上でさらに僕に殴りかかってきました。

検察官：そのときは、被告人はあなたの身体のどこをねらってどのように殴りかかってきたのですか。

小次郎：このときも同じように木刀を自分の頭の上に振り上げて、僕の頭のあたりをめがけて木刀を振り下ろしてきました。

検察官：それはあなたにあたりましたか。

小次郎：ちょうど武蔵が殴りかかってきたときに船が揺れ、武蔵はよろけて体勢^{たいせい}を崩し、殴りかかった勢いでそのまま船から海に落ちてしまったので、僕はなんとか一命^{いちめい}をとりとめました。

【処罰^{しょばつ}感情^{かんじょう}など】

検察官：今回被告人に襲われて、あなたはどのようなケガをしましたか。

小次郎：手首の骨が折れ、頭にもケガをしました。

検察官：被告人の処罰^{しょばつ}について、何か望むことはありますか。

小次郎：殺されそうになりましたし、何よりも僕と徹子の仲を裂こうとしたのが許せません。厳しい処罰をしてください。

検察官：以上です。

裁判官：弁護人、反対尋問^{はんたいじんもん}をどうぞ。

【小次郎と武蔵の関係】

弁護人：あなたは被告人と同年ですね

小次郎：そうです。

弁護人：それに被告人と同じように剣道をやっていたのですよね

小次郎：そうですが、幽霊部員でした。大学に入ってから剣道はやって

いません。

【武蔵におそわれたときの状況】

弁護人：あなたは人を殺そうと考えたときに、木刀を使いますか。ナイフとか包丁を使うのではありませんか。

検察官：異議あり！証人に個人的な意見を求める尋問は許されません！

裁判官：弁護人ご意見は。

弁護人：重要なことだと思います。

裁判官：異議を認めます。弁護人は質問を変えてください。

弁護人：では質問を撤回します。被告人に殴りかかれたとき、かわすこともできたのではないですか

小次郎：とてもできません。突然おそわれましたし、武蔵は剣道の達人ですから。

弁護人：でも、あなたも剣道部に入っていたのですよね。

小次郎：剣道はほとんどやっていなかったし、実際木刀で思い切り殴られました。とてもかわすことなんてできませんでした。

弁護人：でも最後に「関夕三郎」の上で殴りかかれたときは、うまく攻撃をかわせたんですよね。

小次郎：かわしたのではなく、船が揺れたからあたらなかったのです。

弁護人：浜辺で被告人が殴りかかってきたとき、あなたの頭ではなく袈裟^{けさ}斬り^ぎという斬り方で右肩のあたりをねらっていたのではありませんか。

小次郎：いいえ。頭をねらっていました。実際に僕の額にもケガをさせられています。

弁護人：被告人は右肩をねらっていたが、あなたがかわそうと動いたせいでああなたの額にあたってしまったのではないのですか。

小次郎：それはありません。僕がとっさに頭を右手で守ったから、右手の

ケガと額の傷くらいですんだのです。

弁護人：さきほどあなたはかわすことなんてとてもできないと言いましたが、うまく防御することはできていたわけですね。

小次郎：……。たまたまだと思います。防御できたと言っても、額にあたりましたし。

弁護人：あなたが殴られたとき、となりに宮澤徹子さんがいましたよね。

小次郎：はい。

弁護人：徹子さんはあなたの右にいたのですか？左にいたのですか？

小次郎：左にいました。

弁護人：あなたは殴られた後、どこに倒れましたか？

小次郎：徹子と反対方向に倒れました。

弁護人：あなたは殴られたときに、右方向に避けたんじゃないんですか？

小次郎：わかりません。

弁護人：浜辺で殴られた後、あなたは「関夕三郎」まで逃げましたね。

小次郎：はい。

弁護人：「関夕三郎」の上で、被告人から「話せばわかる」と言われませんでしたか。

小次郎：武蔵はそんなことは言っていません。僕が「話せばわかる」と言ったのに聞き入れず、僕に殴りかかってきました。

弁護人：被告人はあなたを殴ろうとしたのではなく、謝ろうとして抱きついたのではありませんでしたか。

小次郎：そんなことは絶対ありません。木刀を持ったままで抱きつくなんてありえません。

弁護人：でも結果的に、あなたは船の上では殴られなかったのですよね。

小次郎：はい。武蔵がよろけてそのまま海に落ちてしまったので。

弁護人：本当は被告人は船の上ではあなたに殴りかかっていなかったの

はないですか。誰も見ている人はいないのでしょ。

小次郎：いいえ。殴りかかってきました。僕自身が見ています。

【その他】

弁護人：今回のトラブルの原因は、宮澤さんとの交際とのことですが、宮澤さんとはいつから交際しているのですか。

小次郎：今年の4月1日からです。

弁護人：付き合い始めてから事件までの間に、被告人から脅迫きょうはくされたりしたことはありましたか

小次郎：ないです。

弁護人：宮澤さんが板野友美似の美女で、そのために被告人が恨んでいたとのことですが、宮澤さんは板野友美似というよりお笑い芸人のイモト似ではありませんか。

検察官：異議あり！証人に個人的な意見を求めている上に、侮辱ぶじょくてき的な尋問じんもんです！

裁判官：弁護人ご意見は。

弁護人：私の正直な感想です。

裁判官：異議を認めます。弁護人は質問を変えてください。

弁護人：質問を撤回てっかいします。被告人は高校時代に他人にケガをさせたりけんかをしたりしていませんか。

小次郎：それはありませんが、かっとなりやすいタイプだったと思います。

弁護人：以上です。

裁判官：裁判官からもいくつか質問いたします。被告人は、今回浜辺であなたたちと出くわす前から、あなたと宮澤さんの交際を知っていましたか。

小次郎：たぶん知らなかったのではないかと思います。

裁判官：あなたも剣道をやっていたとのことですが、浜辺で殴りかかられたとき、被告人は袈裟斬り^{けさぎり}という斬り方で殴りかかってきましたか。

小次郎：剣道はあまりやっていなかったのでわかりません。

裁判官：では、被告人はあなたに殴りかかるとき、縦に木刀を振り下ろしましたか、それとも斜めに木刀を振りましたか。

小次郎：とっさのことだったので、あまりよく覚えていません。

裁判官：以上で尋問^{じんもん}を終わります。傍聴席に戻ってください。